

のぞき消化器 IBD クリニック

熊本県上益城郡益城町広崎 1572-1

URL : <https://nozaki-ibd.com/>



院長 野崎 良一

「患者様ファーストの医療」を信条に、地域のかかりつけ医として患者さんに寄り添った医療を提供している『のぞき消化器 IBD クリニック』。消化器内科医として長年尽力してきた野崎院長は、消化器内科、内視鏡内科、一般内科を通して、地域医療への貢献に情熱を向けている。本日は、そんな院長にタレントの布川敏和氏がお話を伺った。

——早速ですが、野崎院長は何故医療の道に入ろうと？

私は熊本県天草市出身で、海が綺麗な田舎町で育ちました。私はそんな町が好きだったので、高校生の時に両親が病を患い、田舎は医療に恵まれていないことを感じたのです。それから、「困っている地域の方々のお役に立ちたい」と考えるようになり、『自治医科大学』で学びました。その後、地元熊本県で地域医療やへき地医療を中心に約10年間従事してきました。

——自身の経験から、困っている方々の力になりたいと思われたのですか。

その後、1990年ごろでしょうか。当時、日本では大腸がんの患者さんが増加傾向にある中で、大腸内視鏡の専門医は少ない状況にありました。ならば自分がその専門医になろうと考えて、研修を受けて大腸内視鏡をマスターし、大腸・肛門の診療で全国的に有名な『大腸肛門病センター高野病院』で28年間消化器内科医として、潰瘍性大腸炎、クローン病の炎症性腸疾患（IBD）の内科診療を中心に、消化器疾患の診療、消化器内視鏡による検査・治療、胃がん・大腸がん検診に従事してきました。そうして62歳となった今、残りの医師としての人生は自分がやりたい医療をしようと

思い、専門性を活かして地域の方々のお役に立つ医療をするために、独立開業という一大決心をしました。そうして、今年の9月1日に『のぞき消化器 IBD クリニック』をスタートした次第です。

——おめでとうございます！ 地域の方々のために行動できること、素晴らしいと思います。

いえいえ、私一人で成し得たことではありません。妻をはじめとした家族や、スタッフの皆、そして何よりも足を運んで下さる患者さん方。皆さんのお力添えがあって、このクリニックは誕生しました。つくづく、人と人との信頼関係の大切さを感じますね。スタッフの中には、勤務医のころから約20年間にわたり、共に働いてくれているメンバーもおります。勤務医から経営者となり、スタッフやその家族の生活を守る責任も生まれました。不安もありますが、周囲の方々を支えを力として、地域の方々のために尽力していきたいです。

——院長は、本当に情熱を持って地域医療に取り組んでいらっしゃることが伝わります。だからこそ、皆様が支えになりたいと思われるのではないのでしょうか。

ありがたいことです。ここ益城町は、5年前の熊本大地震で大きな被害に見舞われた地域です。復興が進んでいく中で、当クリニックが少しでも住民の皆様のお役に立てたら何よりです。こうした小さなクリニックの役目は、地域に密着して患者さん一人ひとりに寄り添う医療を提供することだと思っています。また、立地条件としても、空港や高速道路から近いいため、難病の患者さんでも足を運びやすく、県内外から来て下さっています。

——患者さんとしてもありがたいですね。最後に、今後について伺います。

「『のぞき消化器 IBD クリニック』ができて良かった」と言っていたいただけるようなクリニックにしていきたいです。また、私と一緒に働きたいと言って下さる若いドクターの方々にも来ていただきたい、一緒に地域医療を盛り上げていきたいですね。最先端の医療や社会情勢を注視しながら、この地でお役に立てるよう、尽力する所存です。

after the interview



「野崎院長の奥様とスタッフさんにもお話を伺いました。お二方とも、『開業して良かった』とおっしゃっており、院長がどれほど信頼されているのかが伝わってきましたね」

布川 敏和
(タレント)

